

スポーツを入り口にした

社会的困難を抱える若者の支援

「ダイバーシティサッカーで人とつながる」

独立行政法人福祉医療機構（WAM）が行う社会福祉振興助成事業（WAM助成）は、国庫補助金や寄付金を財源とし、高齢者・障害者などが地域のつながりのなかで自立した生活を送れるよう、NPOやボランティア団体などが行う民間の創意工夫ある活動などに、助成を行っています。

今号では、WAM助成を活用した認定NPO法人ビッグイシュー基金の取り組みを紹介します。

ホームレス問題を解決し 誰もが生きやすい社会をつくる

大阪市にある認定NPO法人ビッグイシュー基金は、ホームレス・貧困問題を解決し、誰もが生きやすい社会をつくることを目的に、さまざまな困難を抱える人たちの総合的なサポートに取り組んできた。

同法人の設立経緯は、母体である「有限会社ビッグイシュー日本」では、ホームレスに仕事を提供することを目的に、雑誌『ビッグ

イシュー』を発行し、路上で販売してもらい、その売り上げの半分を収入とする社会的活動

に取り組んできた。その一方で、ホームレスの自立には就労を含めた総合的なサポートが必要であるとの観点から、平成19年に非営利団体ビッグイシュー基金を設立し、翌年4月にNPO法人格を取得した。現在は認定NPOの認可を受けている。

主な活動としては、「ホームレスを中心とした困窮者の生活自立支援」、「問題解決のネットワークづくりと政策提案」、「ボランティア活動と市民活動」の3つの事業を柱に、各種のプログラムを通じて、貧困問題の解決と「誰にでも居場所と出番のある包摂社会」の形成を目指している。

生活自立支援のプログラムでは、ホームレスの自立に向けて必要な情報をまとめた「路上脱出・生活SOSガイド」を作成し、全国各地で配布しているほか、定期的な健康診断や住まい、仕事、生活、法律などに関する相談事業を行っている。就労支援では、雑誌『ビッグイシュー』の販売をはじめ、就労支援団体と連

ひと言

WAMから

社会的困難を抱える若者に対し、スポーツを通じて心身の健康増進、社会資源のつながりをつくることを目的に、日常的な集い「スポーツ交流サロン」、その目標の場となるスポーツの祭典「ダイバーシティカップ」を開催しました。祭典では事前事後の交流会を設ける工夫をするなど、交流の場を重視することで分野の異なる支援団体の連携がスタートするといった波及効果もみられました。また、支援者向けに「講習会」を実施し、当事者とその支援者双方から意図した成果をあげられたことは高く評価します。

携して仕事応援プログラムを展開している。

スポーツを入り口にした 居場所をつくる

同法人は、平成30年度のWAM助成を活用し、「社会的困難な若者へのスポーツ応援事業」を実施した。

同事業は、さまざまな社会的困難を抱える若者に対し、スポーツを入り口にした居場所をつくり、日常的に集うことにより情報交換や心身の健康増進、社会資源へのつながりをつくることを目的に、①スポーツ活動促進のための委員会の開催、②支援講習会、③スポーツ交流サロン、④スポーツの祭典「ダイバーシティカップ」の開催などを実施した。助成事業を実施した経緯について、プログラム・コーディネーターの川上翔氏は次のように語る。

「若者ホームレスは、家や仕事がないだけでなく、不登校やひきこもり、精神疾患など複合的な問題を抱えており、住まいや就労の



支援だけでなく、日常的に集える居場所などで自立に向けたアプローチをしていくことが大事ではないかと考えていました。また、若者ホームレスの特徴として、例えば、雑誌『ビッグイシュー』の販売に抵抗がある人も少なくなく、自分がホームレス状態であることを発信することを嫌う傾向があります。もともと、当法人はホームレスの生活自立支援のなかでスポーツの促進に取り組んでいたこともあり、スポーツを入り口にした居場所をつくることにより、社会的な困難を抱える若者たちが参加しやすくし、交流を図りながら自立に向けた支援をすることに取り組みました」(以下、「」内は川上氏の説明)。

なお、同法人は、平成29年度のWAM助成でスポーツを入り口にした居場所づくりに取り組んでおり、30年度は東京で実施した活動を大阪に広げるとともに、スポーツプログラムを実践できる支援者の人材育成を目的とした支援講習会を実施した。

事業の円滑な実施にあたっては、社会的な不利・困難を抱える若者などのスポーツ活動促進のための「ダイバーシティイサツカーアソシエーション委員会」を開催し、課題の共有や運営体制、スポーツを推進する担い手の育成などについて検討した。



全18回開催した東京の「スポーツ交流サロン」には、社会的困難を抱える若者など延べ333人が参加した

スポーツプログラムを 実践できる人材を育成

スポーツプログラムを実践できる支援者の人材育成を目的とした支援講習会は、平成29年度の助成事業でまとめた「スポーツを用いた若者支援や社会参加を応援する先駆事例調査」をもとに、同法人がこれまで培ってきたスポーツプログラム運営のノウハウを共有した。講習会のプログラムでは、スポーツを用いた先駆的なプログラムの紹介や居場所づくりのノウハウ、社会的困難を抱える人に対するコーチングの手法、オランダで展開される「ソーシャルスポーツコーチ」の役割やスキルなどについて学んだ。

全4回実施した支援

事業概要

助成額

862万9千円

平成30年度事業

認定NPO法人ビッグイシュー基金

社会的困難な若者へのスポーツ応援展開事業

【事業概要】

社会的困難を抱える若者に対し、情報交換や心身の健康促進、社会資源へのつながりをつくることを目的に、スポーツを入り口にした日常的な集いの場「スポーツ交流サロン」やスポーツの祭典「ダイバーシティカップ」を開催するほか、スポーツプログラムを実践できる支援者を育成する講習会を実施する事業



【実施内容】

- ◆社会的不利・困難を抱える若者などのスポーツ活動促進のための委員会の開催
円滑な事業の実施に向けて、運営や課題の把握、スポーツ推進の担い手の育成などについて検討
- ◆スポーツを用いた支援講習会
社会的不利・困難を抱える若者などの支援団体がスポーツプログラムを展開できるよう、人材育成を目的とした講習会を開催
- ◆社会的不利・困難を抱える若者などの集う「スポーツ交流サロン」
社会的困難を抱える若者に対し、スポーツを入り口にした交流サロンを開催し、日常的に集いながら、情報交換や心身の健康増進、社会資源とのつながりをつくる
- ◆スポーツの祭典「ダイバーシティカップ」の開催
「スポーツ交流サロン」に参加した当事者が目標となる大会を開催し、チームづくりや練習することを促進。当事者と支援者が立場を超えてつながりをもつことを目指す

【成果】

- ◆全4回開催した支援講習会には、社会的困難を抱えた若者の支援者、当事者など延べ111人が受講した
- ◆東京と大阪で実施した「スポーツ交流サロン」は、18回開催した東京では延べ333人、4回開催した大阪では延べ130人が参加した
- ◆東京で開催した「ダイバーシティカップ5」には200人、大阪で開催した「第1回ダイバーシティカップ in 関西」には150人が参加
大会だけではなく、事前交流会と事後交流会をあわせて開催することにより、当事者や支援者の交流をより深めることができた



スポーツを通じた社会的包摂の取り組みを広げていくため、令和2年3月にNPO法人ダイバーシティサッカー協会を設立し、全国の支援団体と協働して運営ノウハウの提供や情報交換、連携体制の強化などを行っている

講習会では、社会的困難を抱える若者の支援者をはじめ、当事者、一般市民など延べ111人が受講した。

「スポーツ交流サロン」を 東京・大阪で開催

スポーツを入り口に社会的困難を抱える若者が日常的に集い、情報交換や心身の健康促進、社会資源へのつながりをつくることを目的とした「スポーツ交流サロン」は東京と大阪で実施した。

18回開催した東京では延べ333人、4回



この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約によって保護されています。版權者（独立行政法人福祉医療機構）ならびに著作権者の許可を得ない複製（コピー）、再配布を、固くお断わりいたします。



© Naho Nakamura

東京で開催した「ダイバーシティカップ5」には延べ200人、大阪で開催した「第1回ダイバーシティカップ in 関西」には延べ150人が参加した



4回開催した支援講習会は、社会的困難を抱えた若者の支援者、当事者など延べ111人が受講した



大阪で開催した「スポーツ交流サロン」は、ホームレスやひきこもり、在日外国人、障害者の就労支援など毎回テーマを設け、それぞれの支援団体と連携してフットサルを通じた交流を行った。写真上はホームレス問題の理解を深めるために、路上生活者や日雇い労働者が多い西成区の釜ヶ崎地域を街歩きした際の様子



開催した大阪では延べ130人が参加した。参加者はほぼ男性で、路上生活者や不登校、ひきこもり、精神疾患を抱える人のほか、難民申請をしている外国人などの参加があり、年齢は10〜70歳代と幅広く、30歳代が最も多かったという。

東京で開催した「スポーツ交流サロン」は、サロン型プログラムとして「サッカー交流」と「交流勉強会」をあわせて実施した。「参加者は年齢や背景もさまざま、対人関係に不安をもつ人も少なくないため、『サッカー交流』では最初に、握手をして自己紹介をしたり、ランニングしながらハイタッチするなど、体を使ったアイスブレイク（初対面の人同士が出会うときに緊張をほぐす手法）で心身をほぐしてもらったあとに、ボールを使った練習や試合形式のミニゲームなどを行いました。サッカー交流のあとは、参加者同士で食事をしながら、その日のプレイを振り返ったり、自分が抱えている課題を互いに話しあい、それぞれの悩みを共有しました。ホームレスやひきこもり、精神疾患など多様な困難を抱えている人同士が課題を共有することにより、互いの困難を理解しあって当事者同

士がピアサポートをする場になっています。交流勉強会には、配置したスタッフが相談に対応し、社会資源などの情報を提供するほか、相談に応じて専門機関につないでいる。大阪で開催した「スポーツ交流サロン」のプログラムでは、ホームレスやひきこもり、在日外国人、障害者の就労支援など毎回テーマを設定し、それぞれのテーマに関連する支援団体と連携しながら、フットサルの活動を軸に交流を行った。

大阪で実施した「スポーツ交流サロン」では、多様な背景のある当事者自身にも企画や運営に関わってもらい、互いの境遇を学びあう機会をつくった。ホームレスを対象にした活動の際には、路上生活者や日雇い労働者が多く、支援施設なども集中する大阪市西成区の釜ヶ崎地域を参加者で街歩きをして、ホームレス経験者から説明を受けながら、ホームレス問題や支援のあり方などについての理解を深めている。

多様な人が集い、交流する「ダイバーシティカップ」を開催

参加した当事者が目標とする大会としてフットサル大会の「ダイバーシティカップ」を東京と大阪で開催した。

「ダイバーシティカップ」は、ホームレス状態の人をはじめ、社会的に孤立した人たちが集い、交流するフットサル大会として平成27年から東京で毎年開催されており、大阪では第1回目の開催となった。

『ダイバーシティカップ』には、それぞれ



この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約によって保護されています。版權者（独立行政法人福祉医療機構）ならびに著作権者の許可を得ない複製（コピー）、再配布を、固くお断わりいたします。

全国に活動を広げていく一歩に

助成事業の成果として、スポーツを入り口

「大会や交流会を通して、多様な当事者同士が立場を超えた交流をする」とともに、支援者同士の情報交換や連携の強化につながっています。例えば、うつ病支援と不登校の若者支援という分野の異なる支援団体の連携がスタートするなど、支援者のネットワークが構築されるきっかけになりました。普段、専門性に特化している支援団体の場合、支援の考え方で互いに譲れない部分があり、連携が難しいケースもありますが、スポーツを入り口にしていくのでスムーズに交流できる面もあると思います」。

チームをつくって参加してもらうかたちとなり、日頃から各支援団体等でスポーツ活動をしているチームや、『ダイバーシティカップ』をきっかけにチームを結成して参加するケースもあります。大会には、ホームレス当事者をはじめ、不登校・ひきこもり、フリースクールに通う子ども、児童養護施設出身の若者、精神障害者、ギャンブル依存症などの支援団体や個人で結成したチームが参加しました。東京では延べ200人(10チーム)、大阪では延べ150人(12チーム)が参加し、東京で開催した大会には、神奈川、千葉、山梨、宮城など広域からの参加があったという。さらに、大会の開催にとどまらず、大会の前後に事前交流会と事後交流会を開催することで、参加者や支援者がより交流を図れる機会をつくった。

活動を社会に発信し、共感を得る

認定 NPO 法人ビッグイシュー基金
プログラム・コーディネーター
川上 翔氏



スポーツを通じた活動をしていくために、運営資金の確保は課題となっています。その要因の一つとして、スポーツを通じた取り組みは余暇活動として捉えられてしまうため、例えば学習支援や就労支援であれば、寄付者に対して説明がしやすく寄付も集まりやすいのですが、余暇活動に近いスポーツを通じた取り組みは共感を得にくいところがあり、寄付を集めたり、行政の事業化につなげることは難しい面があります。

実際にスポーツを入り口にした居場所づくりなどの活動により、これまで潜在化してつながることのできなかった社会的不利や困難を抱える若者と継続的に関わり、適切な支援につなぐたり、支援者同士のネットワークを構築する成果を生み出すことができていますので、このような活動を広く社会に発信し、共感を得ていく必要があると考えています。

にした居場所づくりの活動を広げるとともに、スポーツプログラムを実践する支援者の人材育成につなげることができた。『スポーツ交流サロン』や『ダイバーシティカップ』が東京だけでなく、大阪での活動に広がったことは大きな成果となりました。社会的困難を抱えた若者は全国にいますので、全都道府県で大会を開催したいという思いがあり、スポーツをしたいと思えば、誰でも気軽に参加でき、人とつながれることの一歩になったと思います。助成事業終了後の波及効果として、同法人が事務局として運営してきた「ダイバーシティサッカーアソシエーション委員会」を發展させ、令和2年3月にNPO法人「ダイバーシティサッカー協会」を設立している。現在、同会では全国各地にあるスポーツを

通じた社会的包摂に取り組んでいる支援団体とオンラインのミーティングを定期的に行い、運営ノウハウの提供や情報交換、協働体制の強化を図ることにより、スポーツを通じた居場所づくりやイベント等の活動を広げていくことに取り組んでいる。社会的困難を抱える若者に対し、スポーツを入り口にした居場所を提供し、自立に向けた支援につなげる同法人の取り組みが全国に広がることを期待される。

◆団体概要

〒530-0003 大阪市北区堂島2-3-2 堂北ビル4階
TEL : 06-6345-1517
FAX : 06-6457-1358
URL : <https://bigissue.or.jp>
設立 : 平成19年9月
共同代表 : 稲葉 剛、枝元なほみ、米本 昌平



社会福祉振興助成事業に関するお問い合わせ

●NPO リソースセンター

NPO 支援課 (助成事業の相談・募集、NPO の融資相談等)
TEL : 03-3438-4756 FAX : 03-3438-0218 (共通)

NPO 振興課 (助成事業の広報、事業評価等)
TEL : 03-3438-9942 FAX : 03-3438-0218 (共通)

NPO等の民間福祉活動への
応援よろしく申し上げます!

当機構では
寄付金を募集
しています



お問合せ先 : 03-3438-0211 (総務部総務課)

